ST1-24008

5月20日・月曜日 2024年（令和6年） 日刊工業新聞

不変と革新
～長寿経営に向けて～
事業をつなぐ

シバセ工業（岡山県浅口市）

工業用ストロー生産で成長

シバセ工業（岡山県浅口市、磯田拓也社長）は、1926年（大15）に創業し、ほぼ30年ごとに事業を転換してきた。当初は精米やそうめん生産を手がけ、その後に飲料用ストローを生産した。現在は多様な業種向けに多品種少量のストローを製造する。国内唯一という工業用ストローはさまざまな用途で使われ、自社生産量の半分を占めるまでに成長した。

26年創業の芝勢商店が事業の始まりで、49年に芝勢興業株式会社を設立し、地元特産品のそうめんを生産した。だが競争が激しく、飲料用ストロー生産に事業を転換。ある大手食品メーカーに納入し、事業を拡大したが、容器が紙パックに変わるなどの事情で受注量は徐々に減少した。

99年に工場長（当時）として入社した磯田社長は新規取引先を開拓するため、営業力を強化した。国内のストロー市場は9割を輸入品が占める。2005年、社長に就任すると安価な輸入品に対抗するため、多品種少量、短納期のビジネスモデルに転換した。

さらに07年から新たな用途として工業用ストローの生産を始めた。工業用はドリルカバーや塗装時のマスキング、スプレーやポンプのノズル、部品の容器などさまざまな用途で使われている。また、血液分析装置のスポイトとノズルなど医療機器にも採用が広がった。今ではストロー生産の半分が工業用だ。

一方で、磯田社長は創業以来変わらないのは「社員を大切にすること」と言い切る。創業家の芝勢家が大事にしてきた伝統という。社長就任後、売り上げの拡大とともに採用を増やし、現在は約50人の従業員が在籍する。本社を構える岡山県浅口市には大手企業の工場などはない。雇用を創出できたのが一番の地域貢献と強調する。

2007年まで本社として活用した昔の社屋

【企業メモ】シバセ工業は国内ストロー生産で約5割のシェアを持ち、多種多様なストローを生産する。新型コロナウイルス禍ではPCR検査用ストローの受注が拡大し、飲料用ストローの減少を補った。